

6月1日 主の昇天

偉大な権能

マタイによる福音書 28 章 16～20 節

¹⁶ さて、十一人の弟子たちはガリラヤに行き、イエスが指示しておかれた山に登った。¹⁷ そして、イエスに会い、ひれ伏した。しかし、疑う者もいた。¹⁸ イエスは、近寄って来て言われた。「わたしは天と地の一切の権能を授かっている。¹⁹ だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にきなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、²⁰ あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」

他の朗読：使徒 1:1～11 詩編 47:2, 3, 6～9 エフェソ 1:17～23

Lectio …読む

本日の福音はマタイによる福音書の最後の部分です。この箇所はマタイによる福音書 10 章の物語を補足しています。10 章でイエスは 12 人の弟子たちを訓練して、彼らに最初の短い使命を与えて派遣しました。

10 章と 28 章の 2 つの本文は、イエスが初期の弟子たちに偉大な権能を持たせて派遣したとき弟子たちが何を理解していたかを知るために、両方一緒に読むべきところです。最初に権能を与えられたときには、弟子たちの使命は「イスラエルの家の失われた羊」に限られています。そして弟子たちは異邦人の道に行ってはならない、またサマリア人の町に入ってはならないと明確に命じられました。しかし復活の後ではこの制限が解かれ、イエスはすべての民と福音を分かち合うように弟子たちに命じています。

この出会いの物語は、復活の物語の全ての特色を有しています。イエスのご自身が選ばれた弟子たちと、ご自身が選ばれた場所で出会われました。イエスに会い、ひれ伏す者がいる一方で疑う者もいました。この記述では、イエスのご自身が幽霊ではなく、実在するものであるという証明はもはやなさらず、焦点は今後の使命に当てられています。

イエスは、自分は「天と地の一切の権能を授かっている」と宣言します。そして、その権能は神が授けたものであるということも明確にされています。この権能に基づき、イエスは弟子たちに「すべての民」のところにいくように命じます。

イエスの権能は世界の全ての人々に福音を説くこと、そして「彼らを自分の弟子にすること」を含みます。三位一体の、すなわち「父と子と聖霊」の名による洗礼を受けることで弟子たる資格が与えられます。別の言葉で言えば、信じる人々が教会の一員になるのです。そしてこの新しい弟子たちに、受難と死の前の数年の間にイエスが与えた教えを理解し、生きるように教えるというプロセスが始まります。

この時点では、イエスは弟子たちにこの権能をどのように遂行するかの指示は与えていません。しかし、使徒言行録 1 章で読んだように、弟子たちがこの使命を遂行できるように、聖霊が注がれるのです。

マタイによる福音書は、イエスは世の終わりまでいつも弟子たちと共にいる、という約束で終わります。どのようにして、という詳細の説明はなく、ただ保証だけを与えます。イエスの約束は、そのメッセージのことば通り、今日の私たちのためにあり、また永遠のものなのです。

Meditatio …黙想する

この偉大な権能について、あなたはどんなことを理解していますか。
この偉大な権能に参加しようとするとき、あなたの周りに誰か見えるでしょうか。
この権能を成し遂げるために、あなた自身は自分の役割をどのように果たしているでしょうか。
今日も私たちと共にいるという約束を、イエスはどのように果たしていると思いますか。

Oratio …祈る

使徒言行録 1 章 1～11 節を祈りの内に読むことで、偉大な権能の力と不思議さの中に、より深く入って行きましょう。あなたがイエスの言葉を分かち合うことのできる誰かについて、神に語りかけていただきましょう。私たちと共にいて、私たちを助けるために聖霊を遣わしてくださいという、イエスの約束を思い起こしましょう。

Contemplatio …観想する

エフェソ 1 章 17～23 節を数回読んで、その素晴らしいみことばを吸収しましょう。17 節は、先週ヨハネによる福音書 14 章 17 節で読んだ、私たちが神を知るようになるために、聖霊が神を明らかにする役割を果たしていることについて繰り返しています。

数分、時間を取ってイエスに与えられた権能についてよく考え、あなたの信仰を強めていただきましょう。

「キリストを…すべての支配、権威、勢力、主権の上に置き、今の世ばかりでなく、来るべき世にも唱えられるあらゆる名の上に置かれました。」(20、21 節)